

8日間の軌跡

月日(曜)	現地時刻	日程(泊)
8月18日(水)	8:30 12:00 18:50 23:45	役場出発 関空からシンガポールへ シンガポールからパースへ パース到着 入国手続後、ホテルへ
8月19日(木)	9:15 12:30	兵庫文化交流センター 表敬訪問 ファームステイ
8月20日(金)	12:30 16:00 17:00	ファームからスワン市へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面
8月21日(土)	14:00	フットボールの試合観戦 ホストファミリーと過ごす
8月22日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
8月23日(月)	8:30 18:00	ガバナースターリン高校体験入学 スワン市主催歓迎レセプション
8月24日(火)	9:00 10:00 16:00	ホストファミリーとお別れ パース市内見学 パースからシンガポールへ
8月25日(水)	1:10 8:30 11:30	シンガポールから関空へ 関空到着 稲美町到着



平成16年度 中学生海外派遣事業

～ 15歳の夏、オーストラリア体験報告 ～

今年度の新規事業として、国際社会にも対応のできる人材の育成をしようと、町と稲美町国際交流協会が主催する中学生海外派遣事業が実施されました。8月18日から25日の8日間、中学生8人(男2人、女6人)が西オーストラリア州のパース近郊を訪問し、ファームス

テイやホームステイ、また、現地生徒との交流から相互理解を深めてきました。彼ら8人は、遠くオーストラリアの地を何を感じ、何を学んできたのでしょうか。かけがえのないものとなった8人の体験談を紹介します。



ファーガソンファームにて

稲美町国際交流協会 会長 養内 捷之

稲美町助役 大西 由二

者の感性が外国の人々、日常生活や最も重要な点は、中学生という若き大満足...と。



スワン市長(左)とホームステイを体験した生徒の感想は、英語の難しさを実感しながらも、つと長く滞在したというものや、ホストの皆さんの心遣いがうれしかったというものでした。「たくさんの友達ができ、スワン市という第二の故郷もでき、大満足...と。」

稲美町の約30倍の面積を持つスワン市では、ホストファミリーに見守られ、かつて味わったことのない豊かな経験をなした中学生の体験談を一読していただき、その感動を改めてみなさんにも受け取っていただきたいと思います。



友好の輪をスワン市長へ派遣する中学生とが実現した。

生涯学習の場を求めて 中学生の海外派遣を終えて

自然に接し、どう変容するかということです。生涯学習の立場からこの貴重な体験はきっと将来キラリと光る心の宝石になると思います。またこのような異文化体験が必ずや人間を立派に成長させることでしょう。私の願いは、今後も中学生を海外派遣することにより、国際的視野を持ち、住民全体に交流の輪を広げ、ゆたかな人材育成を図ることにあります。

スワン市(西オーストラリア)のホストの皆様をはじめとして現地の方々には本当にお世話になり厚く御礼を申し上げます。

スワン市との交流はじまる

ホストファミリーの方から、「私は子ども達から学ぶことがたくさんあります。それが楽しいのです。だから、1カ月でも1年でもボランティアで引き受けたいよ」と言われた言葉が私自身の心に強く残りました。最後になりましたが、この事業を進めるにあたり、パースにある兵庫県の海外事務所、スワン市長をはじめ多くの関係各位のご協力に感謝いたします。

スワン市との交流が始まり、今後とも中学生海外派遣事業が社会学習を体験してもらう大切な教育の場のひとつとして、ますます発展していきます。皆様方のご支援をお願いいたします。

オーストラリアを訪問したメンバー		派遣生徒	
行政関係者	引率者	稲美中3年	稲美北中3年
大西 由二(稲美町助役)	養内 捷之(稲美町国際交流協会会長)	池田 奈央	古川明日香
藤原 良知(企画課副課長)	湊 謙(稲美中学校教諭)	井上 浩朗	大前 美幸
		佐藤 友香	村田 欣吾
		長坂 裕美	
		森田 亜沙美	

もう一度ホームステイがしたい 大前 美幸

私がこの8日間、オーストラリアで体験したことは数え切れないほどたくさんあり、そのすべては今でもここに残っています。

夜空いっぱいにあふれている星たちに感動し、南半球でしか見られない南十字星を見つけ、うれしく心が躍りました。楽しく充実した8日間でしたが、8日というのはとても短く感じられ、あまり英語ができなくて、ただ行きたいという思いだけで応募した

私だけ、気合と根性があれば英語は通じるし、思いが通じることがここパースでわかりました。しかも、日本以外の国に



知っている人ができ、とても光栄に思います。この体験で私の夢は達成でき、それと同時に、パースにもう一度行きたい、そして、もう一度ホームステイがしたいという大きな夢が生まれました。

緊張感も良い思い出に 森田 亜沙美

ホストとは、初めは緊張して笑っていることしかできなくて、英語ばかりなんだなあとと思うと不安にもなりました。でも、家族の人がゆっくり話してくれたので不安は少なくなっていきました。初めての晩御飯では、食べ方を教えてもらったりして楽しく過ごせました。この日は緊張でちょっと疲れたけど、良い思い出になったと思います。その後は、たくさん話しよう、辞書を持ち歩い



ていました。お別れはとてもさみしかったです。みんながやさしくて、本当の家族みたいな存在でした。本当に悲しくなると何故か自然に泣いてしまいました。もっと長い間ホームステイがしたかったし、家族の人とも仲良くなれたから、大人になったら絶対もう一度行きたいです。本当にこの事業に参加できて良かったです。

新たな発見ができた海外派遣 村田 欣吾

今回の海外派遣で、僕は多くのことを学びました。西オーストラリア州では、30万人が日本語を勉強している、これは60人に1人の割合だそうです。また、日本との文化の違いについては、違う所は似ても似つかないのに、同じ所はまったく気が付かないくらい同じところがありました。それらを見出すことに少しうれしく、そして楽しくなりました。英語はとても勉強に



りました。特に驚いたのは、学校で習うのとは全然違うことです。例に挙げるとすれば疑問文です。オーストラリアでは、肯定文の構成で文の最後を上げるだけで疑問文と理解してくれるのです。

近い将来、とても親切にしてくれた僕のホストファミリーをもう一度訪ねたいと思います。今年の夏休みは今までで一番良い夏休みになりました。

その優しさにふれて 古川 明日香

今だから言えることは、タンヤとブライアンの方にホームステイができて良かったということです。ホームステイという、同じ年くらいの子がいる家にお世話になり、子どもと友達になったりすることだと思っていたので、初めてホストが2人とわかった時は少しびっくりしました。でも、タンヤとブライアンは仕事をしながら私たちをホームステイさせてくれ、娘のようにかわいがってくれ



ました。その優しさの中で生活するうちに、この家にホームステイさせてもらって本当に良かったと思えてきました。言葉が違っても、生活習慣が違って、心は通じると2人に教えてもらいました。別れの日、悲しくて悲しくて何度も泣いてしまいましたが、また、タンヤとブライアンに会いに行きたいです。

自然の豊かさ 人のあたたかさ 佐藤 友香

オーストラリアでは本当に驚きの連続でした。私のホストファミリーも、周りの家と同じように広大な草原を持っていましたが、豊かな自然と生活が密接していて良い所だと思いました。



また、人の考え方も日本とは違うように感じました。日本人は集団を大事にする民族とよく言われます。一方、オーストラリアの人は、個人をとて大事にしていました。だれも何

行動には自分で責任を持つのです。日本とは全く違う考え方でした。今回、言葉が違っていたからこそ、普段気にしてい

ない自然の奇麗さや人のあたたかさを身にしみて感じることができたと思

います。こんな良い体験ができたのも、たくさんの方の支援があったからです。この感謝の気持ちを別のことで恩返しできればいいと思います。

あつという間の1週間 池田 奈央

学校見学では、うらやましく感じたことがあります。1・2時間目が終わるとティータイムがあり、15時までの授業で皆すぐに帰宅してしま



たが、上映中に大きな声で笑ったり、立ち歩いたり、習慣の違いに驚きました。デイビーが私たちのために時間を使ってくれたこと、一番に考えてくれたことは、とてもうれしかったです。あつという間に過ぎてしまった1週間。たくさんの人とお話ができ、良い経験になりました。もっとオーストラリアで過ごしたかったのという感じです。また、映画にも行きまし

たが、上映中に大きな声で笑ったり、立ち歩いたり、習慣の違いに驚きました。デイビーが私たちのために時間を使ってくれたこと、一番に考えてくれたことは、とてもうれしかったです。あつという間に過ぎてしまった1週間。たくさんの人とお話ができ、良い経験になりました。もっとオーストラリアで過ごしたかったのという感じです。また、映画にも行きまし

夢のようだった8日間 長坂 裕美

私たちは、いろいろな人に「君たちは稲美町、兵庫県、日本の代表者で、それらを背負って行くんだよ」と言われ、私は大丈夫かなと不安でした。でも、この8日間は夢のように過ぎていきました。ファームでは、痛そうに見える口ばしのエミューにエサをあげることができて感動でした。みんなでキャンプファイヤーも楽しさ120%でした。ホームステイ先には、子どもがいなくて残念だ



ったけど、紙に書いたり電子辞書を使ったりして何とか会話もできました。また、キングスパークやパース動物園、水族館に丈夫かなと不安でした。でも、この8日間は夢のように過ぎていきました。ファームでは、痛そうに見える口ばしのエミューにエサをあげることができて感動でした。みんなでキャンプファイヤーも楽しさ120%でした。ホームステイ先には、子どもがいなくて残念だ

間過ごせたのは、引率してくださった方々や多くの皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

感謝を口に出すということ 井上 浩朗

相手を幸せにしたり、人と人との交流を深めることができるのは、感謝を口にすることだと思います。ホームステイに関しても、受け入れてくださったこと、いつもより早起きしているいろいろな場所へ何時間もかけて連れて行ってくださったこと、いつも温かい料理を作ってくれたことなど、感謝しなければいけないことはたくさんありました。身近にある感謝しなければいけないことをみつ



け、恥ずかしがらずに「ありがとう」というべきだと思います。それが国際交流の第一歩なのだから。僕は、これまで過ごしてきた約15年間で、数えるほどしか「心を込めて感謝」を口にできていません。ですが、この8日間はそんな僕を変えてくれ、精神的に強くしてくれました。

特集 Tell us about your experiences in AUSTRALIA .
オーストラリアでの体験談を教えてください!!